

## 看護学部教員インタビュー

### ～中京学院大学看護学部のパンフレットからは視ることのできない付加価値について～

今回、日頃何気なく口にする「付加価値」について、考えてみました。少し古い情報ですが、「平成10年10月の大学審議会答申「21世紀の大学像と今後の改革方策について」でも「大学は、社会に貢献する人材の養成に当たるといふ役割を担っており、学生に高い付加価値を身に付けさせた上で卒業生として送り出すことが大学の社会的責任である」と述べられています。ではその付加価値とは具体的にどのようなものでしょうか？

ネット上の情報では以下のような内容が出てきます。(調べが浅くてすみません)

「経済における価値とは財の価格のことだが、生産活動によって生産された商品の価格が原材料等の価格より高くなるのは、生産によって価値が生み出され、付加されたからとする考え方に由来する。(ウィキペディアより抜粋)」

「通俗的には「特定の人・場所・施設や何かの商品・サービスなどに付け加えられた独自の価値 (ウィキペディアより抜粋)」

一見教育の現場に付加価値という言葉は似つかわしくない印象を受けますが、これを大学に置き換えるとすれば、大学側から見た付加価値は「何を学び何ができるようになったか」と言ったものが大学独自のものであること。更には、「この学費でここまでしてくれる」と思えるような教育サービスの提供もあるかもしれません。一方、学生から見た付加価値は「本学での学びに価値を見出しており、その価値と思える事からは学生の数だけある」と言えるのではないかと思います。

そこで、先生方が「付加価値」だと考えていることについて、看護学部の国家試験対策を企画運営されている先生方にインタビューしたところ、次のような回答を得ましたので、今回お伝えしたいと思います。

#### 【先生が思う中京学院大学看護学部の特徴を教えてください】

- ・高校までの学力を問わず看護専門職を目指すことができる。
- ・1年生から看護師国家試験に向けた、対策講座が無料で受講できる。
- ・学生個々の学力や個性に対応した、教員との密な関わりを持てる環境がある。
- ・臨床看護学実習施設が多いため、様々な病院で実習ができ、就職先としての将来像をたくさん体験することができる。(契約実習施設 61)

#### 【この学部では、学ぶ学生にどのような付加価値を提供できるとお考えですか？】

- ・大学で必要とされる学習姿勢だけでなく、看護専門職としての生涯学習に向けた学習習慣・学習方法が身につく。
- ・学習における成功体験「やればできる」を体験できる。(体験による成長)
- ・様々な看護活動を経験した教員や臨床経験の長い教員が在籍、また、看護に関する有資格者(認定看護師、専門看護師など)、医療専門職(理学療法士、薬剤師、東日本大震災派遣看護師など)も在籍しているため、医療現場の現状や多職種連携など、看護師としての将来像を具体的に描くことができる。

【付加価値提供のための支援内容について聞かせてください】

・アドバイザー制

大学生活全般について、1年間同一の教員が相談に応じる体制(担任制とは異なる)。4年次には、就職履歴書の指導や採用面接練習なども担当している。また、国家試験に関してアドバイザーごとに個別指導もある。

・国家試験対策講座

看護師国家試験の合格と生涯学習に向けた個々の学習方法・習慣を確立させる目的で、1年生から4年生の学年ごとに通年で講座を実施している。1・2年生においては、必修科目の「形態機能学」「疾病治療学」の履修に合わせた講座が計画されており、定期試験対策としての効果も得られる。

・キャリア支援

就職活動時の履歴書の書き方や面接指導を、キャリア支援専門教員から指導を受けられるとともに、アドバイザー教員と履歴書の最終内容確認や就職したい施設、分野に合わせた面接指導を受けられる。

【支援によって学生はどのように変化していますか】

・自身の学習方法、学習習慣を再認識するようになった。

予習・復習の必要性や何故それが必要であるか、予習・復習をすることで、授業の理解度の違いを体験し、学習の面白さを知る。

・学習に対する姿勢・行動が変容している。

出来なかったことが出来るようになる成功体験を通じて、自主性が芽生え、「分からなかったことが分かる喜び」をどんどん自分自身で積み重ねられるようになる。

(国試講座終了後に、まるでテーマパークにでも行ってきたかのような表情を見せる学生さんがいますよ！)

【最後に現役高校生の皆さんに高校段階でどんなことに取り組んでほしいか伺います】

・社会人基礎力を身に付けるために最低限のマナーを理解しておいてほしい。

・自分自身の特性を理解して、意思表示、自己表現できるようにしてほしい。

・高校生活で経験すべきことを普通に経験しておいてほしい。(部活動、クラス活動、文化祭や体育祭、友人との関係構築など)

・これは言うまでもなく高校までの最低限の基礎学力と自身の学力を客観的に捉える力。

パンフレットに掲載できる情報には限りがありますし、一教員個人のコメントを多く掲載することはありません。少し長くなりましたがホームページならではコメント掲載を心がけました。私たちが考える価値を学生たちも同様に価値だと捉えてもらえることが、双方の幸せにつながるのではと感じます。是非ご一読ください。ご協力いただいた上坂先生、小池先生ありがとうございました。

2022.5.26

アドミッションセンター  
小栗吉彦